

「スーパー・メガリージョン構想検討会最終とりまとめ」が公表（紹介）

2019年5月31日

国土審議会スーパー・メガリージョン構想検討会は2019年5月20日、2017年9月以来2019年4月までの20回にわたる審議の成果を「人口減少に打ち勝つスーパー・メガリージョンの形成に向けて一時間と場所からの解放による新たな価値創造に向けて一」と題する最終とりまとめとして公表した。以下は最終報告の冒頭に示された要約文である。ここに示された内容は、リニア・新幹線の2027年の東京・名古屋間開通、2037年の東京・大阪間の開通を視界に入れた目指されるべき抽象的な目標像であり、具体的な対応策は、今後委ねられており、残念ながらほとんど見えてこない。実際、公表後、マスコミや民間経済団体等からの反応もあまりないようだ。これが画餅に帰さないためには、その推進を図るため、国土形成計画の改変をはじめとして、行政の横断的な連携、民間資本を投入しやすい規制緩和、これらを踏まえた、従来の延長線にはない多くの野心的な政策プログラムが必要である。次のアクションが間断なく打たれることを期待したい。報告書の取りまとめはその端緒に過ぎない。

(要約文)

スーパー・メガリージョンは、人口減少下にある我が国において、リニア中央新幹線による対流の活発化及びそれによる新たな価値の創造を図り、これから迎える本格的な知識集約型社会において、我が国全体の持続的な成長につなげていくコアとなるものである。そして、スーパー・メガリージョン構想は、いわゆる国土基盤の整備のみならず、各地域を健全で活力のある関係で結び、産業力を高める抜本的なイノベーションを起こしていくことで、経済発展と社会的課題の解決を一体的に達成し、人口減少にうちかつこれからの時代に相応しい新たな成長の実現を目指すものである。

近年、我が国は、アジアの継続的な経済成長による相対的な地位の低下に加え、急激な人口減少、異次元の高齢化等の課題に直面している。また、第四次産業革命による資本集約型、労働集約型社会から知識集約型社会への転換や、SDGs（持続可能な開発目標）による価値観の転換により、独自性や多様性、クリエイティビティ等が強く求められる時代となっている。

約半世紀前の東海道新幹線の開通は、当時の資本集約型、労働集約型社会において、製造業等を中心とした我が国の高度経済成長を加速させる一因となった。一方、リニア中央新幹線は、これから迎える本格的な知識集約型社会の時代において、フィジカル空間における多様な人の対流を活発化させる高速交通インフラとして不可欠な存在となり、サイバー空間におけるデジタル技術の革新とともに、我が国の国土全体に大きなインパクトとパラダイムシフトをもたらすものと考えられる。そして、そのインパクトは、東海道新幹線がそうであったように、事前に予測し難いものであるが、スーパー・メガリージョン構想検討会では、それをより良い方向へ最大限引き出すことを目的に、広範に叡智を集め、検討を進めた。

検討の結果、目指すべき方向性について、以下のとおり整理した。

- ① 三大都市圏については、各都市圏が将来を見据えながら自らの個性を伸ばすことによって、魅力ある都市圏を形成するとともに、三大都市圏間の対流を活発化することによって、スーパー・メガリージョンの核となる“個性ある三大都市圏の一体化による巨大経済圏の創造”を目指す。
- ② 三大都市圏の間に位置する中間駅周辺地域については、多様な人材が活発に行き交う知的対流拠点となることで、地域の強みを活かした新しい産業を創出していくとともに、大都市で働きながら自然豊かな地域で暮らすなど、新たなライフスタイルを提供していく地域となることによって“中間駅周辺地域から始まる新たな地方創生”を目指す。
- ③ そして、全国各地において、圏域を越えた人的ネットワークを形成し、対流の原動力となる個性を結び付けるとともに、リニア駅を核とした高速交通ネットワークを形成することによって“スーパー・メガリージョンの効果の広域的拡大”を目指す。

このように、本構想を契機として、種々の施策を実行していくことにより、時間と場所からの解放による新たな価値創造を図り、人口減少にうちかつスーパー・メガリージョンを形成する。

(参考図表)

スーパー・メガリージョン構想により実現すること

- ・リニア中央新幹線による劇的な時間短縮は、これから迎える知識集約型社会の時代において、多様な人の対流の活発化に不可欠であり、デジタル技術の革新とともに国土全体に大きなインパクトとパラダイムシフトをもたらす可能性
- ▶ **スーパー・メガリージョン**は、人口減少下にある我が国において、**リニア開通による対流の活発化**及びそれによる**新たな価値の創造**を図り、知識集約型社会の時代における**我が国全体の持続的な成長につなげていくコア**となるもの
- ▶ **スーパー・メガリージョン構想**は、いわゆる国土基盤の整備のみならず、各地域を健全で活力のある関係で結び、産業力を高める**抜本的なイノベーション**を起こしていくことで、**経済発展と社会的課題の解決を一体的に達成し、これからの時代に相応しい新たな成長の実現**を目指すもの

我が国が直面する状況の変化

- ▶ **今後も進展するアジアダイナミズム** (中国等の経済発展、インバウンドの増加)
- ▶ **産業構造の劇的な変化とデジタル化社会** (AI、IoT化等の進展による第四次産業革命 → 労働集約型、資本集約型社会から知識集約型社会へ転換)
- ▶ **世界で激化する都市間競争** (珠江デルタ、シリコンバレー周辺等の台頭)
- ▶ **世界に広がる価値観の転換** (SDGsの採択 → 持続可能性、多様性、包摂性の重視)
- ▶ **我が国が抱える課題と強み**
 - ・ 課題：グローバル競争における我が国の経済の相対的な地位の低下、急激な人口減少、異次元の高齢化、東京一極集中の進展、南海トラフ地震等の災害リスク
 - ・ 強み：高密度のネットワーク(交通・情報通信等)による多様な産業集積、地域間格差の小ささ
→リニア中央新幹線は、これから迎える知識集約型社会において、対流を活発化する不可欠な存在

リニア中央新幹線がもたらすインパクト

(1) フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションが生み出す新たなイノベーション

- ・ イノベーション創出による生産性向上が不可欠となっており、フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションを通じた予定調和なき対流の重要性が高まる
- ・ **リニア開通により、交流機会が増加、交流時間が拡大し、新たなイノベーションを生み出す**

(2) 時間と場所からの解放による新たなビジネススタイル・ライフスタイル

- ・ **リニア開通による時間と場所からの解放が、暮らしに多様な選択肢をもたらす**
 - ・ 男女問わず労働参画し、子育てとも両立しやすい環境
 - ・ 高齢者の社会参画により、豊富な知恵や経験が様々な地域の価値創造に寄与
 - ・ 二地域居住等、都市と地方にまたがる全く新しいビジネススタイル・ライフスタイルの誕生

(3) 海外からの人や投資の積極的な呼び込み

- ・ **リニア開通による三大都市圏の一体化によって、海外からの魅力を向上**
- ・ 高速交通ネットワークとリンクし、訪日外国人旅行者の地方への誘客を更に促進

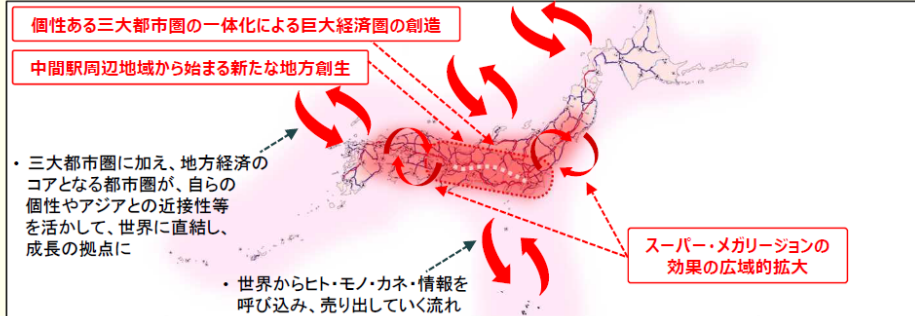
(4) 災害リスクへの対応

- ・ **リニアと新幹線・高速道路ネットワークが有機的につながり、多重性、代替性を強化**
- ・ 東京に集中する人口及び企業の中核機能等の分散や、首都機能をはじめとする中枢管理機能のバックアップ体制の整備に寄与する可能性

世界を先導するスーパー・メガリージョンとなるために

スーパー・メガリージョン構想の目指す方向性

- | | | |
|---|--|---|
| <p>① 新たな価値を生み出すために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的対流を創出・強化し、国内外の多様な対流を活発化 ・ 全国各地の個性を結びつけ、価値創造を図る | <p>② 持続可能な社会を形成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなビジネススタイル・ライフスタイルを見据え、様々な社会システムを転換 ・ 各地域の個性や多様性を重視する価値観の下で、地域の魅力を強化 | <p>③ グローバル市場で羽ばたくために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内市場だけでなく海外市場で評価される新たな産業・サービスを創出 ・ グローバル人材の育成に加え、国内制度や商慣行等の「内なる国際化」を推進 |
|---|--|---|



個性ある三大都市圏の一体化による巨大経済圏の創造

- | | | |
|--|--|--|
| <p>◆ 首都圏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の国際ビジネス拠点を中心に、グローバルな経済都市として強化 ・ 情報通信・広告・金融分野等の強みを活かし、全国の商品の価値を磨き世界に発信することで、地方創生と国際競争力向上の相乗効果を発揮 | <p>◆ 中部圏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三大都市圏の中心に位置し、全国最大の交流圏を形成 ・ 多様なものづくり産業と、AI、IoT等、デジタル技術分野との融合により、生産性向上と高付加価値化を実現する産業の革新・創造拠点に発展 | <p>◆ 関西圏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療・ライフサイエンス分野の強化等により、アジアと共に進化する国際ハブ都市圏として発展 ・ 圏域間のアクセス向上や広域連携の強化により、西日本全体の対流を促進 |
|--|--|--|
- ✓ 新たな国際ビジネスを生み出すため、起業家、スタートアップ企業、大学、投資家等がオープンな環境で協働できる、近接性と集積を重視した**イノベーションディストリクトを形成**し、高密度な知的対流を創出
 - ✓ リニア駅の**乗換利便性、高速道路との直結性、空港アクセスの向上、都市再生**等により集積効果を最大限に引き出す
 - ✓ 三大都市圏間の**新幹線・高速道路ネットワーク整備による大動脈の多重化**とともに、**まちづくりが進められる段階から圏域を越えた連携体制を強化**

中間駅周辺地域から始まる新たな地方創生

- ◆ 多様な人材が活発に行き交い、クリエイティブな交流が生まれる、新しい知的対流拠点に発展
 - ◆ 都市と地方にまたがる新たなビジネススタイル・ライフスタイルを可能とする、新たな居住の選択肢を提供
 - ◆ Society 5.0の革新的技術と豊かな自然環境が融合した、独自性と先進性の高い地域に発展する可能性
- ✓ **地域の強みを活かした産業を育成し、圏域を越えた産業クラスター同士の連携強化**等により、新世代の新たな産業へと発展
 - ✓ **自然豊かな居住環境、多様なツーリズム、社会参画のプラットフォーム**等の形成により、地域独自のライフスタイルを提供
 - ✓ **地域内の主体的取組と地域外の人材の知見を融合**すべく、各地域の魅力を大切に**する価値観をもつ関係人口を拡大**
 - ✓ リニアによる**東西方向の連携軸**に加え、各駅から**南北方向に伸びる高速道路との連結性を強化**し、対流を活発化

スーパー・メガリージョンの効果の広域的拡大

- ✓ 全国各地の個性を結び付けるため、**広域連携により圏域を越えた人的ネットワークを拡大**し、リニア駅を核とした**広域的な新幹線・高速道路ネットワークの形成**により対流を活発化
- ✓ **三大都市圏の空港が相互補完的に機能**することや、**東京・大阪間の輸送ニーズの転換による新たな航空需要**への対応、**東海道新幹線沿線地域の利便性向上**等の効果も期待
- ✓ リニア沿線以外の**中核・中核都市**も、自ら世界に直結し**スーパー・メガリージョンとの相乗効果を発揮する持続可能な成長の拠点**に

(荒井 俊行)